「障がい者支援・えべつ２１プラン」策定に関する団体ヒアリングの結果について

	団体名	①活動状況（年間事業等）、課題	② 保健、医療について	③ 生活環境の整備について（住まいについての課題やバリアフリー、災害・緊急時の支援について）	④ 生活支援について（障害福祉サービスや地域生活支援事業、相談体制について）	⑤ 教育や保育について	⑥ 雇用や就労について	⑦ 障がいへの理解や交流について	⑧ 計画への要望について
1	江別市自立支援協議会（相談支援部会）	【活動状況】 ・現在は18団体で構成されている ・偶数月の年６回、それぞれ約１時間程度活動を行っている ・活動では、参加者で持ち寄った情報を共有している 【課題】 ・計画相談支援を行う事業所の数は適性なのかと感じる ・在宅で生活する方たちの資源（事業所）が少ない	・通院手段として、公共交通機関を使えずタクシーとなってしまうことがあり、通院する方の費用負担が大きくなっている ・医療的ケアを要する方の受け入れ先が少ない ・障がい児から障がい者に変わるタイミングで支援が途切れてしまうことが課題となっている	・バリアフリーに対応した住まいが少なく、住まいにバリアフリーを必要とする方の入居が難しい ・グループホームの数が地域によって差がある ・個別避難計画の実態が見えてこないため、災害時の対応がわからず、計画相談員等支援者が登録の呼びかけをするが、詳しい内容がわからない ・災害時、障がいのある方が江別市内の避難所でどこまで過ごせるか疑問がある ・車いすで利用できるグループホームや就労継続支援B型事業所の数が少ない	・自宅での入浴が難しくなってきている方への対応が増えている ・各サービスの報酬単価が低い	・市内の大学が障がいのある方への対応をしてくれている	・えべつ障がい者しごと相談室「すてら」に相談する人が増えている ・65歳以上で就労継続支援B型事業所を利用する人が増えており、若い世代が使えていないのではと感じる	・就労支援を利用するにはハードルが高い方向けに、地域活動支援センターの活動をもう少し充実してほしい ・障がいの理解に対する普及啓発として、ライトアップ等ができると良い	・気軽に相談しやすい場所が近くにあると良いが、地域活動支援センターの現在の活動が見えずどうやって利用して良いかわからない ・障がいのある方を支援できる人がいないと支えられない
2	江別市自立支援協議会（就労支援部会）	【活動状況】 ・月に１回、主に第２火曜日の17時から18時半に活動している ・主に市内の福祉サービス事業所、就労系の事業所の皆さんと相談支援に関わるスタッフが参加している 【課題】 ・参加事業所が固定化されていて、不参加の事業所も多数ある ・企業担当者や一般企業の雇う側、受け入れる側の方々にも参加してほしい ・厚生労働省から発出されている就労継続支援のガイドラインの確認を行いたい ・就労選択支援の理解を深め、地域の中でより良い運用方法を検討していく必要がある	・医療機関に余力がなく、障がいのある方が必要なときに受診できていない	・職場と自宅の行き来しかしていない人も多く、災害時の対応に不安を感じる ・通信連絡手段がない方もいて、災害時の動きや避難場所等の共有ができていないと感じる ・バスの減便により、障がいのある方の就労機会が減少している ・高齢者の就労継続支援A型・B型事業所利用が増えている ・バリアフリー対応の事業所は少なく、利用できる方が限られる	・地域活動支援センターの活性化、利用ニーズの把握が必要と考えられる ・就労定着支援事業の利用について、３年経ったあとに引継ぎが行われ、担当者が変わることがデメリットとなっている	・放課後等デイサービスが増えているが、サービスの質に不安がある	・障がい者を雇用する企業は増えてきているが、障がいのある方にとって良い働き方ができていない就業もあると感じている ・就労継続支援B型事業所が増えているが、事業所のサービスの質に不安がある ・働けそうな障がい者は増えているが、働いた後ミスマッチで離職することもある	・障がいのある方が、いつでも困ったことを相談できるような場所があると良い。 ・地域活動支援センターが市内で求められている機能を満たしていないように見え、居場所を求めて市外に行っている人もいる ・障がい者だけじゃなくて、障がいのある方と一般の方が一緒に活動できる機会が増えると良い	・就労継続支援B型事業所や放課後等デイサービスが増えているが、計画としても今後も右肩上がりで増えていくという見込みを立てるべきなのか検討の余地がある
3	江別市自立支援協議会（子ども部会）	【活動状況】 ・年４回部会を開催している ・部会には、６、７割ぐらいの事業所が参加しているおり、多いときは80人くらい参加している ・部会に対する関心が増えている印象がある 【課題】 ・参加人数が増えてきており、部会の開催方法が課題となってきている	・子どもの発達に関する専門医が江別市には少ないので、他市へ行くことの負担を感じている家庭もある ・医療的ケア児で難病指定しかつかず、福祉サービスの利用ができない子どもがいて、実費でのサービス利用となり負担となっている	・災害時、発達障がい児は一般避難所、福祉避難所でも新しい環境に行けないことが多く、不安を持つ保護者も多い ・災害時に、事業所が被災していない場合は、避難所として事業所を利用できないか等も考えていく必要がある	・移動支援、短期入所、相談支援等が地域で足りていないと感じる ・子ども発達支援センターが中心となって医療的ケア児、重症心身障害児をみているが、民間の医療的コーディネーターもいるので、連携してケア体制を取れると良い。	・福祉サービスのみで子どもの発達を支えるか考えるのではなく、一般施策のなかで受け皿を拡大していくことが大切である ・インクルーシブを進めていく中でも、特性がある子どもたちが幼稚園、保育園で一緒に活動していくためには、後方支援をしっかりとしていく必要がある ・後方支援をしていくには学校・保育園・幼稚園側の意識も大事になる	・保護者が就労をしていることが増えてきたが、就労したくてもできない方もおり、そういった方の情報数の少なさが課題と考えられる ・保護者同士のつながりが少ないことも課題と考えられる ・就労選択支援が始まったこともあり、当事者である子どもが小さいうちから意思決定を選択していくサポートをどうするかが、療育発達支援の中でも必要となってくる ・支援が必要な方への情報発信が必要となってくる	・各事業所で取り組めていると思うが、課題の洗い出しも深めていきたい ・部会と放課後児童クラブとの連携も必要となってくる	・計画にお願いしたいというより、部会として一つ一つ取り組んでいきたい
4	江別市自立支援協議会（生活支援部会）	【活動状況】 ・グループホーム及び短期入所事業所相互の情報共有や課題整理を行い、横の繋がりの強化と、それによる地域生活支援体制の充実に向けた活動を行っている ・地域生活支援拠点等の機能、緊急受入体制等についても意見交換を行っている	・医療的ケアに携わる事業所や人材が不足しており、必要な人材や物が分からないことが課題となっている ・医療的ケア児等コーディネーターの研修や勉強会があると良い	・重度障がいや高齢化に対応した事業所が不足している ・災害時には、障がい特性に応じた避難支援や福祉避難所との連携、地域生活支援拠点を中心とした受入体制の整備等を進めていただきたい	・緊急時の短期入所受入れは地域生活支援拠点の重要な役割だが、連泊になると報酬単価が下がるため、受入れを継続する事業所の負担が大きい	・卒業後の進路や住まいについて、早い段階から相談できる体制があると良い	・就職後の定着支援や生活面を含めた継続的な支援も重要と考えられる	・障がい当事者や家族、関係機関が気軽に相談・意見交換できる機会や場があることで、地域全体の支援力向上に繋がる	・グループホーム及び短期入所事業所の人材確保・人材育成に対する支援を充実してほしい ・グループホームで地域生活を送る方は、家賃や光熱水費、食費等の日常生活費の負担が大きく、障害基礎年金のみでは経済的に厳しい状況に置かれる方も少なくない

	団体名	①活動状況（年間事業等）、課題	② 保健、医療について	③ 生活環境の整備について（住まいについての課題やバリアフリー、災害・緊急時の支援について）	④ 生活支援について（障害福祉サービスや地域生活支援事業、相談体制について）	⑤ 教育や保育について	⑥ 雇用や就労について	⑦ 障がいへの理解や交流について	⑧ 計画への要望について
5	江別身体障害者福祉協会	【活動状況】 ・障がい者同士の交流を深め、スポーツ活動、文化活動を行っている 【課題】 ・会員の高齢化と減少が課題となっている ・スポーツ活動等、自分たちの活動をもう少しPRしたい	・障がいのある方は、個別に障がいが異なるため、医療機関や制度もバラバラで対応が難しい ・障がいのある方は、病院に行くまでが大変で、特に車を降りてからが大変である	・障がいのある方は、生活環境や住宅事情が個別に異なるため、個別ケースへの対応を行ってほしい ・福祉バスがあると便利である ・障がいのある方は、災害が起こった際にどうしたら良いのかわからず不安である ・防災として個別に連携するチームを作る等、単身の障がい者への活動があると良いが、個人情報保護が足かせになっている部分があると思う ・火事等単身で暮らしている障がい者の生活が心配である	・病院に行く際等、交通費の値上がりが負担となっている ・障がいのある方向けに、スマートフォンの講習会の個別レッスン等無料で行ってほしい	・タンデムサイクリング等、障がいのある方に対する催しをもっとPRしたいと考えている	・障がいのある方は、就労継続支援B型事業所へのアクセスの仕方を知らない人が多い	・障がい者同士のコミュニケーションが難しく、どうやってコミュニケーションを取ったら良いかわからない	・策定委員会に、障がい当事者の委員がいるとありがたい
6	江別視覚障害者福祉協会	【活動状況】 ・正会員16名（障害者手帳を持っている）、賛助会員が25名所属している ・YouTubeやホームページ開設に加えて、年何回かの行事を定期的に実施している 【課題】 ・会員の高齢化、新しい会員が入ってこないことが、大きな悩みとなっている	・保健所への提出物である難病届の文字が小さいため、簡素化する等配慮をしてほしい	・会自体、避難行動要支援制度の対象となっているが、現実に稼働されているかわからないため、避難訓練等で実際に援助者が来てくれることがあれば安心できる ・点字ブロックの整備を推進してほしい	・同行援護の時間制限が厳しいため、利用のしづらさに繋がる ・視覚がいの方も入れる老人ホームは、江別市が認めた方がのみ入れるので、入りやすい状況を考えてほしい ・同行援護のヘルパーの育成をお願いしたい ・日常生活用具（拡大鏡等）も物価高騰で値段が上がっているが、助成金は据え置きのため、負担が大きくなっている ・色の識別を補助する機能を持つ機器やアプリ等について、視覚障がい者の自立支援として、日常生活用具の給付対象または補装具等の補助対象に認めてほしい	－	・バスの本数が減っており、同行援護・移動支援も時間が限られているので通勤が特に大変で、タクシーを利用するしかない状況となっている ・バスの本数が減っているなか、江別市では、他自治体で行われている乗り合いタクシーやコミュニティバス等の話が出てこない	・盲導犬に対して非難する方が一定数いる。９割の方は親切だが、１割の方は否定的に対応をする方がいる	－
7	江別聴力障害者協会	【活動状況】 ・会員は26人となっており、60歳以上が多くを占めているが、大学生も１人在籍している ・障害者手帳を持っていることが会の加入条件となっている 【課題】 ・若い人たちが会に入ってこないことが課題となっている ・スマートフォンが普及したため、会に所属しなくても情報を取得でき会員が増えないと考えられる	・保健所や警察署等公共関係の場所に、もう少し手話のできる人がいると便利で助かる	・交通の便が悪いため、バスを増便してほしい ・福祉バスがまた戻ってきてほしい ・歩道に丈の高い草が生えていて歩く際に危ないと感じる ・災害時に、耳の聞こえない人は情報が入ってくるのが遅く、必要な物資を得られないことが多い ・通訳派遣を災害等緊急時に頼むことも難しいので、耳が聴こえない人が近所にいることを知ってもらうためにも情報発信が大事だと感じている	・ガソリンの値上がりにより、補助があるものの、自己負担が増えている	・もっと多くの小中学校で手話の出前講座ができると良い	・江別市内で聴覚障害者を雇う会社はとても少ない ・会社の会議等、仕事でも通訳を利用できると良い	・耳が聞こえない方への理解がまだまだ足りない ・市民の手話への理解は広がっていると感じる ・9月23日が手話の日に制定されたので、ブルーライトアップをどこかで実施できないか検討してほしい ・手話通訳者の技術研鑽研修に対する助成を行ってほしい ・高齢のろう者が集まれる場所がほしい	－
8	江別手をつなぐ育成会	【活動状況】 ・正会員118名、賛助会員162名＋３法人が所属している ・隔月の会報での情報提供に加え、Instagramと江別市コラボのたねで情報発信をしている 【課題】 ・会員の高齢化と若い保護者の加入・参加が進まない ・障がい児者本人の活動が十分にできていない ・市内小中学校等の連携がなかなか進んでいない	・療育手帳A判定の方は、医療費の助成があるので助かっているが、療育手帳B判定は健常者と同じ扱いで、障がい特性もあって医療にかかることも多いので負担が大きい ・知的障害だと受診が大変な人も多く難しいと断られることもあり、市外へ受診に行くことが多くある。市内で受診できるところを確保してほしい	・障がいのある方が地域で暮らしていくために、グループホーム以外の選択肢や受け皿を増やしてほしい。エアコン設置の助成等もあると良い ・福祉避難所についての情報発信をしてほしい ・避難行動要支援制度の対象がわかりにくい ・緊急時の対応ができるショートステイやグループホームを増やしてほしい	・相談支援事業の充実と福祉サービスの人材確保をお願いしたい ・困ったときに相談から手続きまで繋がるようなワンストップ窓口があると良い ・親なき後、家族の高齢化で障がい者の介護が続けられなくなった時に対応してくれるシェルターサービスがあると安心できる ・青年期の障がい者が交流できる事業所以外の地域活動センターのような第３の居場所があると良い ・交通費助成の拡充として、助成の対象を療育手帳B判定にも広げてほしい	・教育や保育における支援者の専門性の向上と人材確保を推進してほしい ・通学支援を行う事業所がなく、親が送迎しているため、スクールバス等を検討してほしい ・江別市のホームページの利便性を高めてほしい ・札幌市の「元気さーち」のようなサイトがあると利用できる障害福祉サービス事業所の空き情報がわかりやすい	・ジョブコーチや就労定着支援が増加し、長く働き続けるための調整役の支援をしてほしいが、今は十分に支援が届いていない ・就労者の工賃・賃金が向上してほしい ・高校卒業後、20歳過ぎくらいまでの支援が手薄なので、自立訓練等の事業がもう少しあると助けになると思う	・外見からは分かりにくい障がい特性やコミュニケーション、行動上の特性については、全ての世代で地域の理解が進むことを望んでいるが、難しい現状となっている ・地域で障がいのある方本人が参加できる活動の機会があると良い ・互いの悩みを気軽に話し合えるような場として、地域活動支援センターがあると情報交換にも繋がる ・同じ地域で受けられる子どもの体験格差をなくしたい	・地域生活支援拠点事業と相談支援体制の充実を進めてほしい ・重度心身障害者が利用できる事業所を増やしてほしい
9	江別介護ママの会	【活動状況】 ・2017年から活動を開始している ・重症心身障害児者、医療的ケア児者の保護者を中心に構成されている ・社会福祉協議会での茶話会を２カ月に１回、偶数月の第４木曜日の午後に実施している ・ココルクえべつで親子サロンつながるカフェanyを毎月第２土曜日午後に実施している 【課題】 ・コロナを経て、繋がりが途絶えた家庭が多数ある ・子どもの体調が安定しておらず、外出すること自体が困難で、活動に参加できない方も多い	・子どもが就学した後、医療費助成が１割自己負担になることが負担となっている ・18歳を過ぎると、病院に受診できないケースが増える ・江別市立病院で地域の子どもたちを受け入れてほしい	・障がいのある子どもが暮らすための住宅改修費用の助成があると良い ・災害時の支援について、平時からの情報共有や対応体制の整備が必要と考えられる ・具体的には個別避難計画の作成や福祉避難所の事前登録、医療用電源の充電ステーション開設等が必要と考えられる ・医療的ケア児者について、平時からの情報共有や対応体制の整備も必要と考えられる	・通学支援や入浴介助等、実際に利用できる事業所が地域に無く不便である ・医療的ケア児者や重症心身障害児者に対応できる事業所が不足している ・児童期から成人期になると支援が途切れる、18歳の壁が課題となっている	・個別支援保育の要件を緩和してほしい（３歳児クラスからの利用） ・江別市には特別支援学校がなく、保護者の送迎で市外に通学しており、負担となっている	・常時介護を担う家族の就労継続が大きな課題となっている ・介護と仕事を両立できる柔軟な働き方への理解と環境整備を進めてほしい	・教育保育機関等との意見交換や勉強会を定期的に開催してほしい ・障がい児の受け入れに関する窓口を設置してほしい ・障がい児者と生涯伴走してくれる窓口を設置してほしい	・「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の改正法をきっかけに、計画にも18歳以降の医療的ケアを要する方への支援を反映してほしい

	団体名	①活動状況（年間事業等）、課題	② 保健、医療について	③ 生活環境の整備について（住まいについての課題やバリアフリー、災害・緊急時の支援について）	④ 生活支援について（障害福祉サービスや地域生活支援事業、相談体制について）	⑤ 教育や保育について	⑥ 雇用や就労について	⑦ 障がいへの理解や交流について	⑧ 計画への要望について
10	江別地区ことばを育てる親の会	【活動状況】 ・保護者だけ集まる茶話会が年２回と、夏のレク、冬の縁日等を行っている ・インターネットで情報が取れることもあり、会へ加入する家庭が減少している。 【課題】 ・ことばを育てる親の会北海道協議会に入ると、地区協賛金を納めることになり、会員の負担になっている	－	－	・福祉事業所も大変だと思う。職員の入れ替えも多いようで、サービスの質に不安がある	・こだまを中心に乳幼児に対して手厚い支援がされているおかげで、ことばの教室にも繋がりやすい ・江別市には、他市にある幼児教育センターがない等ハード面がないことが大変だと感じている ・言葉の問題で保護者から相談の電話が来ることが多い ・教員は、教育と福祉を分断されているところがあり、福祉への理解ができていないことがある	－	－	－
11	まちの灯（江別市ボランティア団体連絡会）	【活動状況】 ・会員58名「広報えべつ」「市議会だより」「社協だより」等を音声化し、CDに録音し届けている ・企画・制作した生活情報等のCDの他、依頼図書の音声化、恵明園・公民館での対面朗読も行っている ・年に１度、利用者との交流会を実施している 【課題】 ・より多くの方に団体の活動を利用していただくことと、団体の活動のより良い周知方法を考える必要がある	－	・福祉バスが廃止されてからは、バスを借り上げ、会員が同行し会場への送迎をしているが、経費に限りがあり、全ての方の最寄のバス停に停車するのは難しい。バス停への移動さえも高齢化で難しくなっている方も多く、福祉バスの復活を望む ・音響式信号機を増設してほしい ・災害発生時・避難中の支援に加え、災害発生前の対策について現在どのようになっているのかわからないが、会としてもできることがないか、検討していきたい	・CDの再生機の修理、買い替えの助成を行ってほしい ・郵便物は点字化・音声化されたものでなければ、サービスは届かない	－	－	－	・視覚に障がいのある全ての方が必要な支援やそのための手続き等の情報を得ることができるような積極的な配慮が必要と考えられる
12	要約筆記サークルぶらすONE（江別市ボランティア団体連絡会）	【活動状況】 ・週１回、毎週活動しており、要約筆記の講習会を入門講座として開催している ・それ以外には各種イベント・交流に力を入れている ・活動の参加人数は13人となっている 【課題】 ・要約筆記自体が知られていないため、会員が増えず、入門講座の申し込みも少ない	・障害者手帳所持者になれば補聴器の購入助成を受けられるが、障害者手帳を持つ基準が高すぎるのと、制度を知らずに高齢になり、助成を利用しないで自分で購入してしまう人が多いことが課題となっている。 ・人工内耳には電池の補助があるが、補聴器には補助がないため、補聴器においても補助があると良い	・難聴者がどこで生活しているのかわからない ・難聴者となっていても、自分自身で難聴だと気づかない ・災害時にどこに要支援者がいるかわからない	・支援体制は整っているが、どこに相談したら良いかわからない ・市役所ではなく身近に総合的な相談窓口があれば、そこから専門的な支援先へ繋がっていくと思う	－	・雇用や就労についての相談先がわからないと言われたことがある	・音として聞こえるが、話している内容がわからない等聞こえの程度にも個人差があり、難聴に対する理解も難しい ・難聴が認知症に繋がるということも言われているので、認知症予防としても難聴対策は意義があると思う ・イベントを開催しても、なかなか参加者が増えない ・いろいろなイベントに要約筆記を付けてもらいたい	・緊急時や災害時に聴覚に障がいがある方に情報が伝わるよう、文字等の視覚による情報伝達手段の整備も引き続き推進してほしい